

特集「緑化用種苗のトレーサビリティをいかに確保するのか —阿蘇における復元と種苗確保の取り組み—

研究集会「緑化用種苗のトレーサビリティをいかに確保するのか」 の概要および本特集の構成

生態・環境緑化研究部会

1. 研究集会の開催と熊本における活動について

生態・環境緑化研究部会では2017年9月に開催されたELR2017名古屋にて、研究集会「緑化用種苗のトレーサビリティをいかに確保するのか」を開催した。環境省の自然公園における法面緑化指針が示されるなど、地域性種苗の活用機運は拡大してきていると言える。しかし、実際に「地域性」の定義がはっきり決まっているわけではなく、取り扱いについても発注者や事業者がそれぞれ検討・確認するにとどまっているのが現状である。今後取り扱い方法を改善していくため、最新の研究内容を紹介し、現状と今後の方向性について下記の話題提供を中心に議論したいと考えた。

生態・環境緑化研究部会では、生物多様性に配慮した緑化事業の拡大、地域性種苗の普及や利用促進を目指し、種苗の実務に関わっているメンバーを中心に事業者、市民、住民など「実際に扱う」「実際に触れる」視点に重心を置いた活動を行っている。また、2016年熊本地震を受けて熊本県での現地見学会およびシンポジウム「熊本地震災害から学ぶ“緑”の役割とその再生」(2017年3月、概要は第42巻第4号に掲載)を行うとともに、その準備等で訪れた現地の関係各位との連携で始まった「阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト」、さらに自然公園周辺での種苗確保などに取り組んでいるところである。本特集はその中間報告としての内容を含んで構成したものである。研究集会およびプロジェクトへご協力を頂いた関係機関の皆様、あらためて深く感謝申し上げる。阿蘇の草原再生に関する問題を含め、研究部会として、そして学会として、これからも積極的に活動を継続、展開していきたいと考えている。

2. 研究集会の概要

日程：2017年9月23日(土) 13:30~15:30

※ELR2017名古屋の研究集会 C3 として開催

会場：名古屋大学 ES 館 ES ホール

プログラム：

I 話題提供

話題提供 1. 西野文貴 (株式会社グリーンエルム)

緑化植物調達の現状と規格・規制等について・苗木生産の立場から



話題提供 2. 吉原敬嗣 (紅大貿易株式会社)

緑化植物調達の現状と規格・規制等について・輸入種子
取り扱いの現場から

話題提供 3. 今西純一 (京都大学地球環境学堂)

外国産種子利用の問題と、遺伝的地域性の研究から実用
化が期待される技術について

話題提供 4. 津田その子 (中部電力株式会社)

現状で可能な発注方法などについての分析や提案

話題提供 5. 中村華子 (生態・環境緑化研究部会)

阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトと「熊本モデル」と
して試行する(予定の)公開在庫制度のご紹介

II 質疑応答・自由討論 司会：中島敦司 (生態・環境緑化研究部会長・和歌山大学)

なお、当日行われた質疑応答、意見交換の内容と話題提供者からの回答等について、当研究部会のホームページに、本特集および研究集会の報告とあわせて掲載する。

3. 本特集の構成について

標記の研究集会を受け、さらに阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトの経過報告を含めて本特集を構成した。内容は以下の通りである。

3.1 研究集会「緑化用種苗のトレーサビリティをいかに確保するのか」の概要および本特集の構成 (本稿)

3.2 話題提供の概要／報告(西野, 吉原, 今西, 津田, 中村)

3.3 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトの2017年活動報告

3.4 阿蘇周辺自然公園の草原再生に関する種苗の使用範囲
についての見解 (生態・環境緑化研究部会)